



産学官連携の新しいかたち

の集積と活用の方

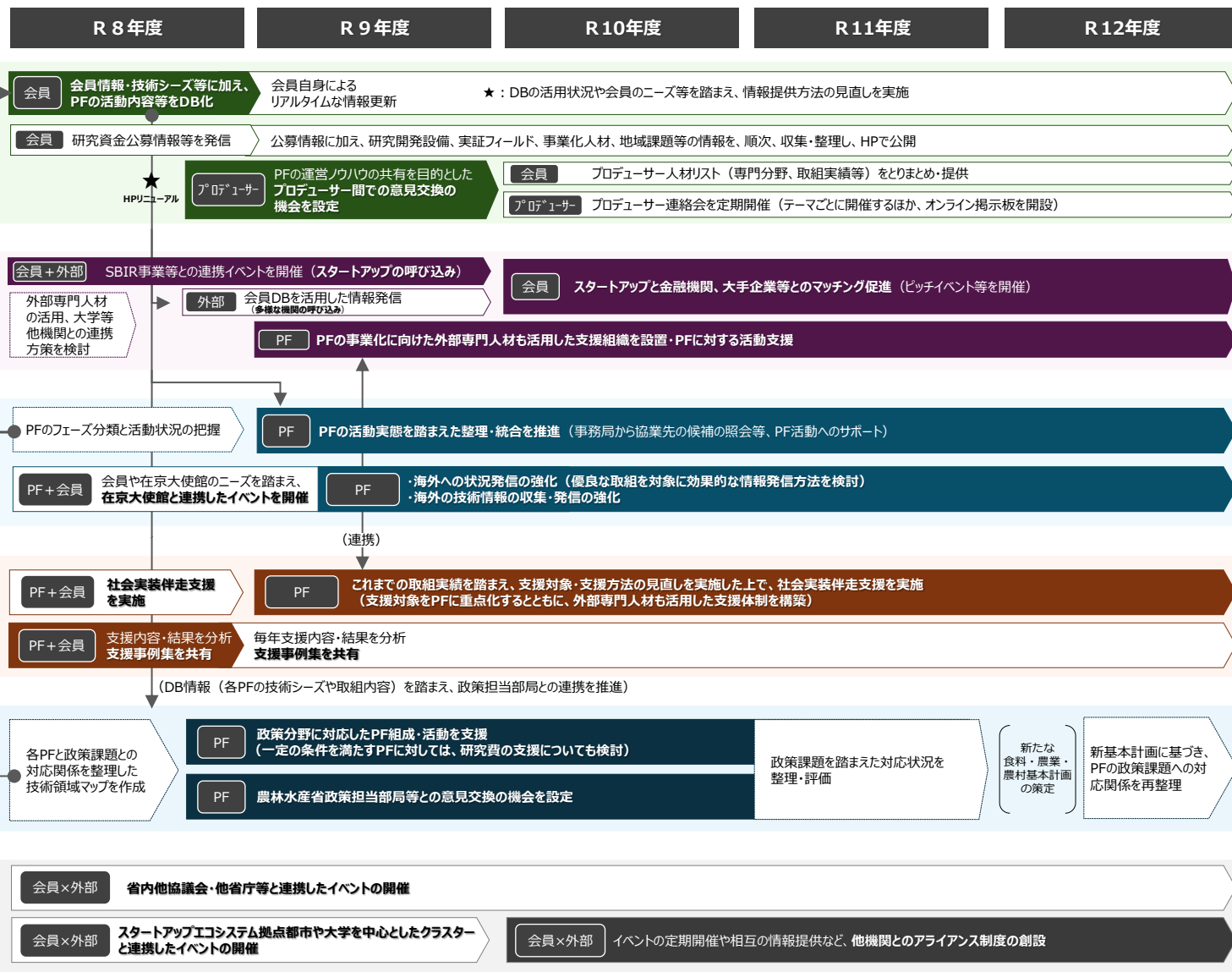
産学官連携協議会

「知」の集積と活用の方 産学官連携協議会 第3期ロードマップについて

「知」の集積と活用の方 産学官連携協議会事務局
農林水産技術会議事務局

「知」の集積と活用の方 第3期ロードマップ

- 「新たな価値創出に向け、研究開発・社会実装の加速化を促す基盤」として機能させるべく、中長期的な視点に立った取組内容をロードマップとして整理。
- ロードマップと併せてKPIを設定し、毎年度、KPIの進捗確認・評価を行うことにより、後年度の取組内容や各年度の活動計画に反映。



KGI

社会実装
(事業化等)
に至った
事例数

60件/年

現状
32件/年
※2025年度実績

※PF：研究開発プラットフォーム

PFの組成・活動の活性化に資する環境整備

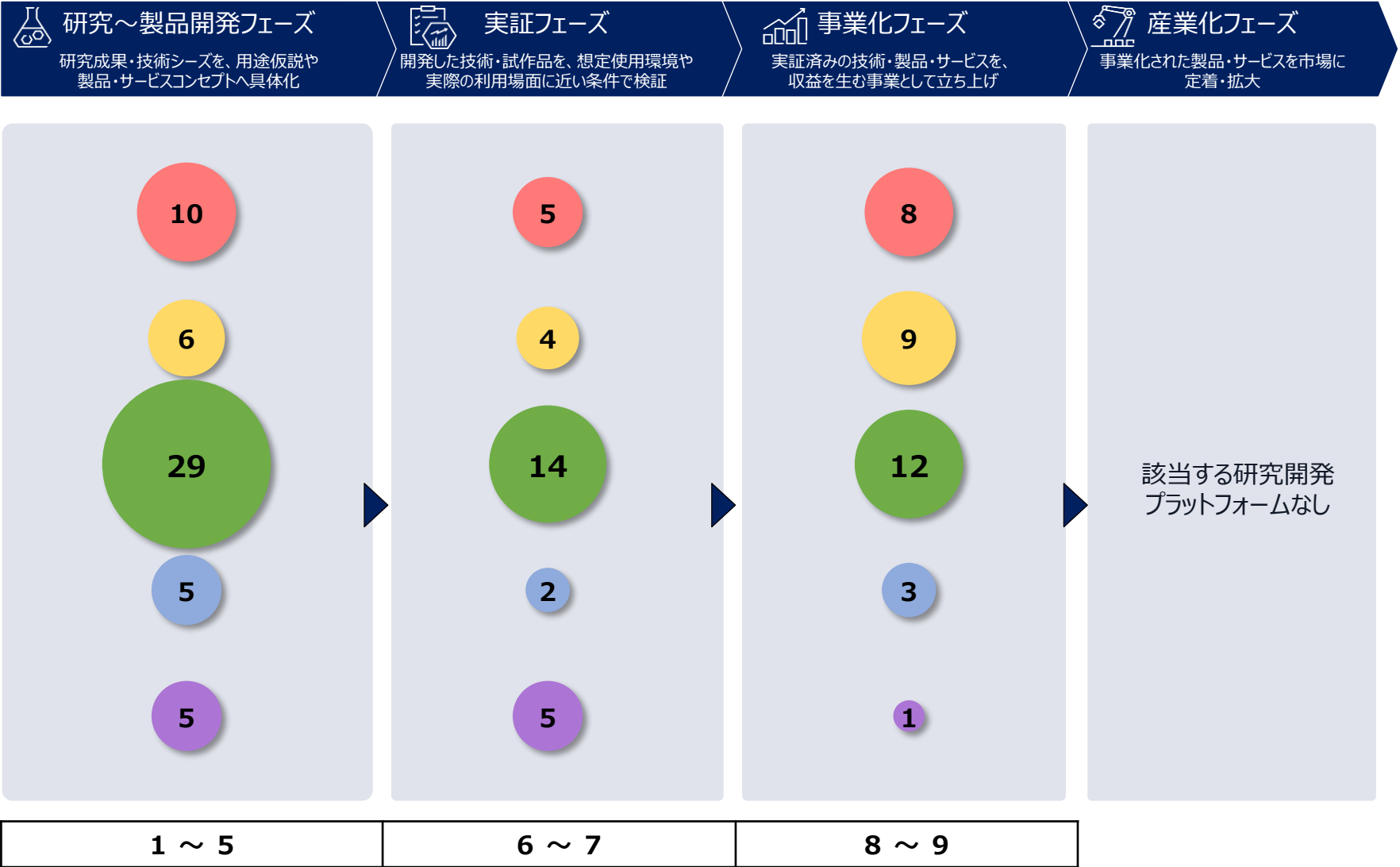
PFの事業化等に向けた支援体制の強化

(参考) KPIの設定根拠

KPI	目標値	設定根拠
DB化した 会員数・PF数	・R8年度までに全PF ・R9年度までに全会員 (個人会員を除く)	・ PFのDB化を優先して進めることとし、R8年度中に全PFのDB化完了を目指して設定。 ・ 会員のDB化については、数が多く、内容の確認・精査に一定の時間を要することから、R9年度中のDB化完了を目指して設定。 (個人会員の情報は、非公開のため、個人会員を除く。)
新規会員数	R12年度までに 1,000人	・ 新規会員の増加数は、年々、鈍化傾向にあるものの、第2期を通じて、約1,000の会員増があったことから、第3期においても、同等の増加を目指して設定。
ステージ前進した件数 (TRLベース)	R12年度までに 100件	・ 現在、「研究～製品開発フェーズ」及び「実証フェーズ」に85、「事業フェーズ」に33のPFが存在。((参考) 研究成果の社会実装フェーズマップ) 前者のPFは、TRLベースで1つ前進、後者のPFは、その半数がTRLベースで1つ前進させることを目指して、100件と設定。
伴走支援対象者の 社会実装件数	R12年度までに 20件	・ 社会実装伴走支援事業において、毎年5件程度、5年間で計25件の支援を想定。これらの支援対象者のうち、8割が第3期中に社会実装することを目指して20件と設定。
イベント参加者の 満足度	「満足」以上の回答 80%以上	・ 協議会が主催する各イベント参加者のうち一定割合の者が満足する内容とすることを目指し、参加者の満足度80%以上と設定。(各セミナー参加者に対するアンケート調査により把握。)

(参考) 研究成果の社会実装フェーズマップ

- フェーズ別では、研究～製品開発フェーズに該当する研究開発プラットフォームが最多。
- カテゴリー別では、「持続可能な農林水産業・食品産業」に関する研究開発プラットフォームが各フェーズにおいて最多となっており、カテゴリーごとに多少がある状況。



※TRL（Technology Readiness Level）：NASAが作成した技術の成熟度を9段階で評価する指標